

地域と一体になって取り組むまちづくり 「道後温泉×アート」

松山市役所 産業経済部 道後温泉事務所 越智 文子



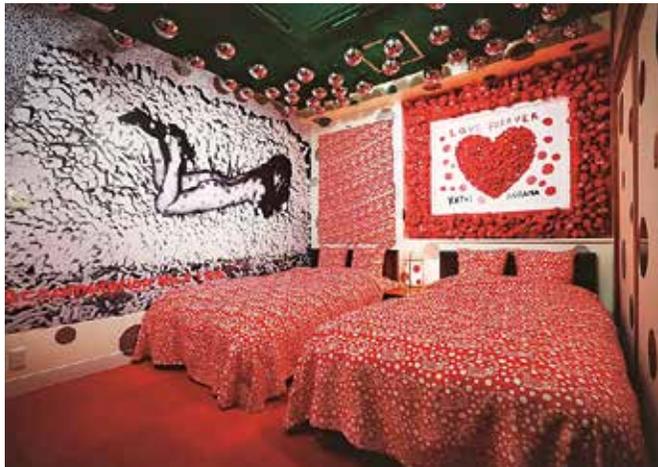
道後温泉のピンチをチャンスに

国の重要文化財で地域の宝である公衆浴場「道後温泉本館」は、明治27年の改築から125年以上経過し、今後長く維持・活用していくためには大規模な修理が必要で、平成17年度に取りまとめられた修理計画では、営業しながらの工事で11年を要するとされ、地元観光事業者は地域経済に与える影響の不安が拭えない状況でした。



工事前の道後温泉本館西面

そうした中、新たな魅力を発信したいという地元の想いを発露として、歴史ある道後温泉に、当時まだ全国的にも少なかった「アート」を取り入れた「道後温泉まちづくりアート事業」を企画。平成26年に道後温泉本館改築120周年の大還暦を記念し、アートフェスティバル「道後オンセナート



道後オンセナート2014作品『草間 彌生×宝荘ホテル』

©YAYOI KUSAMA Dōgo Onsenart2014&HOTEL HORIZONTAL, All Rights Reserved

2014」を開催しました。「道後オンセナート2014」は、約1年間にわたる長期間のイベントで、草間彌生さんなど世界で活躍される著名なアーティストが道後温泉の歴史や人に触れ、インスピレーションを受けて制作したアート作品を温泉街に点在させ、まち歩きをしながら楽しめる鑑賞型のイベントでした。その後も事業

を継続し、「温泉」という地域資源に「アート」を掛け合わせ、新たな魅力を創出し、まちの回遊性・滞在性を高め、国の内外に発信することで、女性や若者など新たな客層の獲得に繋がりました。

また、地元観光事業者やアート・演劇に関わるNPO団体、若手クリエイティブチームを組織し取り組んだことにより、活発な意見交換が生まれ、アートをきっかけとして地域への理解や興味が広がるとともに、地域の経験値を高め、まちとして保存修理工事を乗り越える機運を高めてきました。

鑑賞型から参加型プロジェクトへ

令和元年度には、監修・アーティストとして、東京藝術大学美術学部長の日比野克彦さんを迎え、「日比野克彦×道後温泉 道後アート2019・2020『ひみつジャナイ基地プロジェクト』」と題し、時宗の開祖である一遍上人の生誕地・宝蔵寺を中心とした歴史・文化が感じられる上人坂エリアを中心に、約2年間の参加型のアートプロジェクトを展開しました。アーティストを公募し、地域の人と交流する滞在制作で生まれた作品展示や、これまで知られる機会の少なかった地元のアーティストに表現の場を提供するプロ

グラム、福祉施設や社会的支援を必要とする方の作品を公募し、道後地域のホテル・旅館や商店などとの交流を通して展示するプログラム、一遍上人の「踊念仏」から着想を得、様々な人が交流し踊りを楽しめる仕組みやツールをアーティストや市民と作り、道後から発信するプログラムなど、これまで鑑賞型中心だったアートイベントから、地域や観光客のみなさんがアーティストと一緒に楽しむ参加型のアートプロジェクトに転換し、作品展示だけに留まらない多様な展開で、道後温泉に愛着を持ち、交流する人の輪が地域住民から観光客へと広がるきっかけとなりました。

また、このプロジェクトの中心的役割を担う、様々な人が集い楽しめる交流拠点の「ひみつジャナイ基地」は、29歳以下の若手建築家を対象にした設計コンペで選ばれたアイデアを基に制作されました。このプロジェクトを通して地域住民の憩いの場となり、地域住民と観光客との交流や、レンタルスペースの活用を通じて、新たな人の流



日比野克彦氏と地元学生との共同制作の様子

れを生む交流拠点に成長しました。これら一連のプロジェクトが関係人口の拡大に寄与しています。

こうした長年の取組みが評価され、総務省主催の「令和2年度ふるさとづくり大賞 自治体表彰（総務大臣賞）」の受賞に繋がりました。



ひみつジャナイ基地

道後温泉本館は、平成31年1月に、令和6年末の完了を目指し、営業しながらの保存修理工事に着手しました。工事期間ならではの魅力を発信するため、手塚治虫の「火の鳥」とコラボレーションした「道後REBORNプロジェクト」を実施しています。建物の半分を覆う工所用仮設物に巨大な火の鳥と道後温泉の歴史絵巻を描いた「ラッピングアート」は、これまで道後温泉が、まちづくりアート事業を継続してきたからこそ生まれた「アート作品」だと感じています。

道後温泉本館保存修理工事を契機に観光資源化

これからの道後温泉のまちづくり

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の収束の不透明さや、本館保存修理工事で令和3年夏頃からフォトスポットとして親しまれる「玄関棟」が素屋根で覆われるなど、道後温泉の観光産業への影響を不安に感じる声もありますが、これまで取り組んできた「道後温泉まちづくりアート事業」を通して培ったものを継承・発展し、ピンチをチャンスと捉え、前向きに地域とともに道後温泉の活性化に取り組んでいきます。



道後温泉本館ラッピングアート

©TEZUKA PRODUCTIONS